

そでひちてむすびしみずのこほれるぞ はるたつけふのかぜやとくらん  
ゆきのうちにはるはきにけりうぐひすの こほれるなみだいまやとくらん  
こころざしふかくそめてしをりければ きえあへぬゆきのはなとみゆらん  
かすみたちこのめもはるのゆきふれば はななきさともはなぞちりける  
うぐひすのたによりいつるこゑなくは はるくることをたれかしらまし  
あづさゆみおしてはるさめけふふりぬ あすさへふらばわかなつみてむ  
きみがためはるののにいでてわかなつむ わがころもでにゆきはふりつつ  
かすがののわかなつみにやしろたへの そでふりはへてひとのゆくらん  
いろよりもかこそあはれとおもほゆれ たがそでふれしやどのうめども  
きみならでたれにかみせんうめのはな いろをもかをもしるひとぞしる  
ひとはいさこころもしらずふるさとは はなぞむかしのかににほひける  
いろもかもおなじむかしさくらめど としふるひとぞあらたまりける  
さくらはなはるくははれるはなだにも ひとこのころにあかれやはせぬ  
みるひともなきやまざとのさくらはな ほかのちりなんあとぞさかまし  
まてといふにちらでしとまるものならば なにをさくらにおもひまさまし  
はなちらすかぜのやどりはたれかする われにおしえへよいきてうらみむ  
ひとめみしきみもやくとさくらはな けふはまちみてちらばちらなん  
ひさかたのひかりのどけきはるのひに しづこころなくはなのちるらむ  
さくらはなちりぬるかぜのなごりには みずなきそらになみぞたちける  
はなのごとよのつねならばすぎしてし むかしはまたもかへりきなまし  
まつひともこぬものゆゑにうぐひすの なきつるはなをおりてけるかな  
しるしなきねをもなくかなうぐひすの ことしのみちるはなならなくに  
はなのいろはうつりにけりないたづらに わがみよみふるながみせしまに  
おしとおもふころにいとによられなん ちるはなごとにぬきてとどめん  
いつのまにさつききぬらんあしひきの やまほととぎすいまぞなくなる

ほととぎすまつやまになくなれば われうちつけにこひまさりけり  
なつとあきといきかふそらのかよひじは かだへすずしきかぜらふくらん  
あききぬとめにはさやかにみねども かぜのおとにぞおどろかれぬる  
こひこひてあふよはこよひあまかのかわ きりたちわたりあけずもあらなん  
ちぎりけんこころぞつらきたなばたのとしに ひとたびあふはあふかは  
ものごとにあきぞかなしきもみぢつつ うつろひゆくをかぎりとおもへば  
きみしのぶくさにやつるるふるさとは まつむしのねぞかなしかりける  
ひぐらしのなくやまざとのゆうぐれは かぜよりほかにとふひともなし  
おくやまにもみぢふみわけなくしかの こゑきくときぞあきはかなしき  
つきくさにころもはすらむあさつゆに ぬれてののちはうつろひぬとも  
こころあてにおらばやおらんはつしもの おきまどはせるしらぎくのはな  
あきはきぬもみぢやはやどにふりしきぬ みちふわけてとふひとはなし  
ちはやぶるかみよもきかかずたつたがわ からくれないにみずくくるとは  
かむなびのやまをすぎゆくあきなれば たつたがわにぞぬさはたむくる  
はなのいろはゆきにまじりてみえずとも かをだににほへひとのしるべく  
きのふとていひけるとくらしてあすかがわ ながれてはやきつきひなりけり  
わかきみはちよにやちよにさざれいしの いはほとなりてこけのむすまで  
たちわかれいなばのやまのみねにおふる まつとしきかばいまかえりこむ  
もろともになきてとどめよきりぎりす あきのわかれはをしくやはあらぬ  
やまかぜにさくらふきまきみだれなん はなのまぎれにきみとまるべく  
をしむらんひとのこころをしらぬまに あきのしぐれとみぞふりにける  
あまのはらふりさけみればかすがる にかさのやまにいでしつきかも  
わたのはらやそしまかけてこぎいでぬと ひとつにはつげよあまのつりぶね  
このたびはぬさもとあえずたむけやま もみぢのにしきかみのまにまに  
うつせみのからはきごとにとどむれど たまのゆくへをみぬぞかなしき

ほととぎすなくやさつきのあやめぐさ あやめもしらぬこいもするかな  
みずもあらずみせぬひとのこいしくは あやなくけふやながめくらさん  
たよりもあらぬおもひのあやしきは ころをひとにつくるなりけり  
わがこひはむなしきそらにみちぬらし おもひやれどもいくかたもなし  
ひとしれずおもへばくるしくれなめの すゑつむはなのいろにいでなん  
おもふにはしのぶることぞまけにける いろにはいでじとおもひしものを  
こひしきにいのちをかふるものならば しにはやすくぞあるべかりける  
いとせめてこいしきときはむばたまの よるのころもかへしてぞきる  
きみこふるなみだしなくはからころも むねのあたりはいろもえなまし  
ひとりしてもものをおもへばあきのよの いなばのそよといふひとのなき  
こひししなばたがなはたたじよのなかの つねなきものといひはなすとも  
きみをのみおもひにねにしゆめなれば わがころからみつるなりけり  
わがこひはゆくへもしらずはてもなし あふかぎりをとおもふばかりぞ  
しるといえへばまくらだにせでしねしものを ちりならぬなのそらにたつらむ  
つきよよしよるよしとひとにつげやらば こてふににたりまたずしもあらず  
いつはりのなきのなりせばいかばかり ひとことのはうれしからまし  
みちのくのしのぶもぢずりたれゆゑに みだれんとおもふわれならなくに  
わがごとくわれをおもはむひともがな さてもやうきとよをころみむ  
あひみねばこひこそまされみなせがわ なににふかめておもひそめけむ  
あきかぜはみをわけてしもふかなくに ひとのころのそらになるらむ  
よのなかのひとのころははなぞめの うつろひやすきいろにぞありける  
あはれともうしともものをおもふとき などかなみだのいとなかるらむ  
みをうしとおもふにけぬものなれば かくてもへぬるよそこありけれ  
ほととぎすけさなくこえにおどらけば きみにわかれしときにぞありける  
あまつかぜくものかよひちふきとちよ をとめのすがたしばしとどめん

たれをかもしるひとにせんたかさごの まつもむかしのともならなくに  
あしたずのたてるかはべをふくかぜに うよせてかへらぬなみをかとぞみる  
よのなかのうきもつらきもつげなくに まづしるものはなみだなりけり  
よのなかはゆまうつつかうつつとも ゆめともらずありてなければ  
わがみからうきよのなかのなづけつつ ひとのためさへかなしかるらむ  
いづくにかよをばいとはんこころこそ のにもやまにもまよふべらなれ  
よをすててやまに在るひとやまにても なほうきときはいつちいくらん  
みをすててゆきやしにけんおもふより ほかなるものはこころなりけり  
きみをのみおもひこしちのしらやまは いつかゆきのきゆるときある  
ふるさとはみしごとあらずをののえの くちしところぞこひしかりける  
わすられんときしのべとぞはまちどり ゆくへもしらぬあとをとどむる  
やまぶきのはないろごろもにしやたれ とへどこたへずくちなしにして  
まくらよりあとよりこひのせめくれば せんかたなみぞここなかにおる  
ひとにあはんつきのなきにはおもひおきて むねはりにひにこころやけをり  
われおもふひとをおもはぬむくいにや わがおもふひとのわれをおもはぬ  
あふことにいまははつかになりぬれば よるふかからではつきなかりけり  
ひとこふことをおもにとひひもて あふぎなきこそわびしかりけれ  
うめのはなさきてののちのみのなればや すきものとのみひとのいふらん  
よをいとひこのもとごとくにたちよりて うつぶしぞめのあさのきぬなり  
みやまにはあられふるらしとやまなる まさきのかづらいろづきにおけり  
あぶくまにきりたちくもりあけぬとも きみをばやらじまてばすべなし  
こしときとこひつつをればゆうぐれの おもかげにのみみえわたるかな  
わぎもこにあふさかやまのしのすすき ほにはいでもこひわたるかな  
わがせこがくべきよひなりさがにの くものふるまひかねてしるしも  
みちしらばつみにもゆかむすみのえの きしにおふてふこひわすれぐさ